

平成28年2月15日

提 言

にかほ市長 横山 忠長 様
にかほ市教育委員会
委員長 大久保 敬一 様

にかほ市学校規模適正化検討委員会

委員長 高橋 行



にかほ市学校規模適正化検討委員会の提言について

にかほ市学校規模適正化検討委員会（以下「検討委員会」）では、平成27年度に4回の検討委員会を開催し、象潟地域の3小学校の学校規模適正化について協議を行いました。

1. 平成21年に提出された「にかほ市学校教育将来構想策定委員会」の提言について検討を行いました。
2. 昨年度、象潟地域の3地区でそれぞれ3回行われた象潟地域教育懇談会の懇談内容を考慮して協議を行いました。
3. 象潟地域3小学校の児童数の推移及び複式学級の発生状況をもとに検討を行いました。
4. 象潟地域住民の考えを確認するため、象潟地域の全戸を対象にアンケート調査を実施し、結果について検討を行いました。

以上のことを踏まえた上で、検討委員会は、次のとおり「提言」を提出します。

1. 象潟地域の3小学校の統合について

(1) 平成30年度をめどに、上浜小学校と上郷小学校の小規模化解消のため、象潟小学校と統合することが望ましい。

ただし、統合までの間、上浜小学校と上郷小学校の複式学級を避ける手立てを講じていただきたい。

(2) 統合後の新校舎建設に向けて検討していただきたい。

2. 学校統合における諸条件について

(1) 統合にあたっては、児童の遠距離通学等を考慮し、スクールバス等の交通手段を確保していただきたい。

(2) 現象潟小学校に統合する場合は、地理的に国道、鉄道、河川が近いので、交通安全対策や津波等の震災対策に十分配慮するとともに、防災教育を一層進めていただきたい。

(3) 新校舎の建設を計画する場合には、駐車場、グラウンドが十分に確保され、小中連携教育を推進しやすい場所に建設していただきたい。

(4) 統合した地区の活性化策と校舎の利活用を検討していただきたい。

最後に、学校統合については、本提言等をもとに市の方針を定め、各地区において説明会等を実施し、住民の理解を得ながら統合を進めていかれることを申し添えます。

平成21年 2月19日

にかほ市長

横山 忠 長 様

にかほ市教育委員会委員長

大久保 敬 一 様

にかほ市学校教育将来構想策定委員会

委員長 高橋 昭



にかほ市学校教育将来構想策定委員会の提言について

にかほ市学校教育将来構想策定委員会（以下「策定委員会」）では、平成19年度から2カ年に渡って、にかほ市内の小・中学校の統廃合及び学区の編制について協議を重ねてきました。特に、次の1～4について、全市的な視野に立ち検討してきました。

小規模小学校の適正化と学区の再編について

- 1 釜ヶ台小学校について
- 2 院内小学校・小出小学校について
- 3 象潟地域の小学校について
- 4 平沢小学校と院内小学校の学区について

また、検討にあたって、次の点に配慮してきました。

- 1 地域住民や保護者の意見を十分に考慮した上で、本委員会の意見をまとめること。
- 2 平成30年までの、就学児童・生徒数を具体的に提示し、その資料をもとに検討を進めること。
- 3 校舎の耐震化調査の結果を考慮すること。
- 4 新校舎建設を視野に入れた検討を進めること。

以上の内容を踏まえた上で、策定委員会は、次のとおり「提言」を提出します。

提言

1 釜ヶ台小学校について

- (1) 平成22年度に、釜ヶ台小学校複式学級解消のため、釜ヶ台小学校を院内小学校と統合する。
- (2) 学校名は院内小学校とする。
- (3) 通学方法など具体的なことについては、地域の方々との話し合いで策定していく。

2 院内小学校・小出小学校について

- (1) 平成27年度をめどに、小出小学校小規模化解消のため、院内小学校と小出小学校の統合小学校を建築する。
- (2) 新校舎建築場所及び新たな学校名は、地域の意見を尊重しながら、今後検討していく。
- (3) 通学方法など具体的なことについては、地域の方々との話し合いで策定していく。

3 象潟地域の小学校について

- (1) 平成30年度をめどに、老朽化校舎の改築及び学校規模の適正化のため、象潟小学校、上浜小学校、上郷小学校の統合することを、教育委員会において検討していく。
- (2) 検討は、児童数の推移をみながら進める。
- (3) 統合に関しては、地域住民やPTA会員、保育園の保護者との十分な話し合いが必要である。

4 平沢小学校と院内小学校の学区について

- (1) 平成22年度までに、新興住宅地等の学区未確定地域解消のため、平沢小学区と院内小学区の境界を明確にしておく。

最後に、本提言の具現化にあたっては、児童・生徒の学習環境が、予想される最良のものになるように、さらに検討を重ねていくべきであることを、申し添えます。

象潟地域教育懇談会の開催状況

| 地区名 | 期 日 | 時 間 | 場 所 | 出席者数 |
|------|---------------|-------------|--------------|------|
| 上浜地区 | H26.11.4 (火) | 18:00~19:40 | 上浜構造改善センター | 16人 |
| | H27.1.26 (月) | 18:30~20:30 | 上浜構造改善センター | 20人 |
| | H27.3.18 (水) | 18:00~20:00 | 上浜小学校 音楽室 | 13人 |
| 上郷地区 | H26.11.17 (月) | 18:30~20:10 | 上郷生活改善センター | 26人 |
| | H27.1.29 (木) | 18:30~20:30 | 上郷生活改善センター | 40人 |
| | H27.3.23 (月) | 18:00~20:00 | 上郷小学校 多目的ホール | 10人 |
| 象潟地区 | H26.11.25 (火) | 19:00~20:10 | 象潟公民館 研修室 | 26人 |
| | H27.2.2 (月) | 18:30~20:20 | 象潟公民館 研修室 | 15人 |
| | H27.3.24 (火) | 18:00~19:45 | 象潟小学校 1F ホール | 8人 |

計 174人

象潟地域教育懇談会の内容

●主な質問と回答

- Q 1. 象潟小学校の校舎は、海拔が (3.4m) 低く、津波が発生した場合に危険であるので、安全な場所に新校舎を建設することはできないか。
- A 1. 県の津波想定を基に防災課で作成した「にかほ市津波避難地図」によれば、最大津波高 (29 分後) 10.14mの津波がきた場合でも象潟小学校付近の想定浸水深は 3.3mとなっており、象潟小学校の避難計画どおり南校舎 (S62 建設) の屋上に避難すれば、十分に子供たちの身の安全は確保できると考えております。そのようなことから、市としても教育委員会としても、象潟小学校の場所は安全であるという認識のもと、現象潟小学校への統合を考えており、新校舎の建設は今のところ考えていない状況であります。現象潟小学校の校舎は、耐震改修済みで十分に使用できる状況ですので、統合時に改修が必要な場合は、補助事業の大規模改修も模索しながら検討していきたいと考えています。
*参考 (南校舎屋上 海拔 16.6m、体育館屋上 海拔 14.0m)
(県津波想定 第1波 15分後 20cm)
(国津波想定 第1波 8分後 30cm、最大津波高 10.8m)

- Q 2. 上浜、上郷地区において津波に対して不安であるという意見が多いが、その不安を取り除くための方策をどのように考えていますか。

- A 2. 教育委員会では、現在作成中の防災教育副読本を活用して、来年度から小学3年生以上の児童に防災意識を高めるための防災教育を行います。さらに、象潟小学校を防災モデル校に指定することも計画しており、防災課や象潟中学校、仁賀保高校と連携を図りながら、防災教育を充実させ、「自分の身は自分で守る」という防災意識の啓発や定期的な避難訓練を通して、災害時に自らの判断で冷静に、そして安全に避難することを身に付けさせたいと考えています。また、周辺地域の自治会等と連携した避難訓練や防災研修会などを行い、地域と一体となった防災意識のもとに学校づくりを行い、トップレベルの防災モデル校を目指したいと考えています。

- Q 3. 複式学級の設置基準はどのようになっていますか。また、複式学級が発生した場合の対応はどのようにするつもりですか。

- A 3. 2つの学年を合わせて 16 人以下 (1年生を含む場合は 8人以下) の児童数になった場合に複式学級となり、2つの学年を 1人の先生が教えることとなります。教育委員会では、平成 27 年度から上郷小学校 (2年・3年) に複式学級が発生することから、県教育委員会に 1人の教員の特別配置を要望したところ、複式学級解消のための臨時講師が

1人配置されることになりました。今後も県教育委員会へ複式学級解消のための教員の特別配置について要望はしていきますが、かなわない場合は、市単独で非常勤講師を配置しながら、国の統合の手引書に沿って、統合を模索していきたいと考えております。

- Q 4. 平成 21 年に提出されたにかほ市学校教育将来構想策定委員会の提言を見直すことはないのですか。

- A 4. 提言が出されてから平成 23 年に東日本大震災が発生したり、人口減少や少子化が急速に進むなど環境が大きく変わって来ております。このような状況を踏まえ、教育懇談会で保護者や地域の方々から出された意見・提案等を集約しまして、更に今年 7月に象潟地域全世帯を対象に行うアンケート調査の結果などを基に、学校教育将来構想検討委員会 (仮称) を立ち上げ、これまで出された提言について検討していただき、新たな提言をいただこうと考えております。

- Q 5. 統合の時期について、どのように考えていますか。

- A 5. 教育委員会としては、学校教育将来構想策定委員会の提言を尊重し、平成 30 年度を目途とはしますが、合意形成のできた地区 (小学校) から統合を順次進めたいと考えております。仮に地区の合意の下に統合した場合、地域の文化や伝統などが子供たちに継承され、地域と学校の関わりが継続するように、教育委員会としては、コミュニティ・スクールを実施しようと考えています。学校運営協議会を設置し、学校、保護者、各地区の自治会の皆さんがともに知恵を出し合い、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進めたいと考えています。

- Q 6. 象潟小学校に登校する場合、通学手段についてどのように考えていますか。また、学童保育については、どのように考えていますか。

- A 6. 基本的に文科省で定める 4 キロメートルを基準にしてこれを超える地域については、スクールバス、羽後交通バス、コミュニティバスなどを使って通学することになります。学童保育については、象潟学童か上浜、上郷地区の学童の選択になるのではないかと考えています。

●主な意見

1. 児童数が少なくなれば、統合はやむをえないが、象潟小学校の場所は津波の浸水区域になっているので危惧を感じている。
2. 学区というしほりをなくして、学校を自由に選ぶことができるようにしてほしい。
3. 小学校があるので地域の交流があると思う。地域には伝統的なものなどよいところがたくさんあるので学校を残してほしい。
4. 象潟小学校は津波などの防災面で心配であると言われているが、付近の地域住民の避難場所になっているので、そこが不安というのはどうかと思う。
5. 新校舎を建設し、象潟小学校の校舎をそのまま津波避難タワーに利用すれば、多くの市民が避難できるのではないか。
6. 防災は施設に頼ってばかりでなく、子供たちが地域の人たちと一緒に訓練し、一緒になって逃げるとか、どこに避難場所があるとか、子供たちにそのようなことを学習する機会があってもいいのではないか。
7. 今の象潟小学校でも、早く統合してほしい。
8. 統合についてアンケート調査を行ってほしいが、子供たちの考えも聞くことはできないか。

H27
6月—防災副読本
完成

H27
5月21日—防災教育
推進モデル校に
市で指定